

MIYAGI
UNIVERSITY
2025

Public University Corporation MIYAGI UNIVERSITY

令和7年度入学

宮城大学入試ガイド



宮城大学
MIYAGI UNIVERSITY

Contents

総合型選抜

1. 選抜方法と日程	3
2. 総合型選抜はこんな方にオススメ!	4
3. 総合型選抜の概要	
(1) 出願書類	4
自己申告書①	5
自己申告書②	6
(2) 第1次選考	7
レクチャー①・レクチャーレポート	7
(3) 第2次選考	9
レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート	9
面接(口頭試問を含む。)	10

学校推薦型選抜

1. 選抜方法と日程	12
2. 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ!	12
3. 入試科目「面接」の概要	12

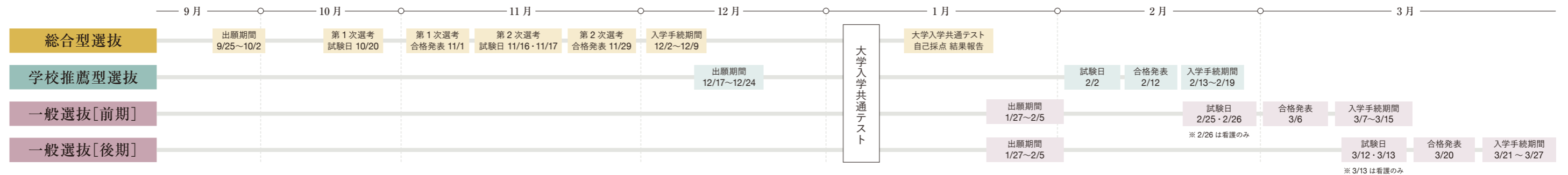
一般選抜 [前期・後期]

1. 選抜方法と日程	13
2. 大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目等	13
3. 入試科目「論説」の概要	15
4. 一般選抜における主体性等の評価	16

入学者選抜方法についての Q & A

令和6年度入学 入試結果	19
令和6年度出身校所在地別志願者数・入学者数	19

Schedule 令和7年度入学 入試スケジュール



令和7年度入学 宮城大学入学者選抜方法

社会情勢等によりやむを得ず選抜方法や選抜日程に変更等が生じる場合は、速やかに本学ウェブサイトにて公表いたします。
<https://www.myu.ac.jp/admissions/colleges/>

学類単位の入試

総合型選抜 (P.3 参照)

入試科目

各学類	第1次選考	1. レクチャー① 2. レクチャーレポート	3. 提出書類
	第2次選考	1日目 1. レクチャー②	2. グループワーク 3. ふりかえりレポート
		2日目 4. 面接(口頭試問を含む。)	
		5. 提出書類	

●レクチャー①、レクチャーレポート、提出書類による第1次選考を行い、合格者に対して第2次選考を行います。第2次選考では2日間の試験を通して、「課題を設定し、見直し、解決し、振り返る力」を評価します。
 ●高等学校長からの推薦は要しませんので、どなたでも出願できます。
 ●入学手続後、本学が指定する大学入学共通テスト科目を受験していただき、自己採点のスコアを報告していただきます。
 ●本学の一般選抜や学校推薦型選抜との併願ができます。

※このほか、私費外国人留学生入試を実施します。

入学時に決定した学類のまま、2年次に進むことができます。

※原則として、途中で学類を変更することはできません。

学群単位の入試

学校推薦型選抜 (P.12 参照)

入試科目

各学群	大学入学共通テスト	面接
-----	-----------	----

●大学入学共通テストの受験を課し、合計点を総合判定の一部として利用します。
 ●本学の一般選抜や総合型選抜との併願ができます。

一般選抜 [前期・後期] (P.13 参照)

入試科目

看護学群	事業構想学群	食産業学群	個別学力検査		
			外国語	論説	面接
			外国語	論説	数学
			外国語	理科	数学

●大学入学共通テストの受験を課し、合計点を総合判定の一部として利用します。
 ●本学の一般選抜や総合型選抜との併願ができます。

※このほか、帰国生徒選抜、社会人選抜を実施します。

2年次進級時に、学類配属を決定します。

※看護学群は1学類のため、全員が看護学群で学ぶこととなります。

総合型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：看護学類 8 名 事業構想学群：事業プランニング学類 8 名 / 地域創生学類 8 名 / 価値創造デザイン学類 8 名 食産業学群：生物生産学類 8 名 / フードマネジメント学類 8 名
出願期間	令和 6 年 9 月 25 日 (水) ~ 令和 6 年 10 月 2 日 (水) 【期間内必着】
第 1 次選考	令和 6 年 10 月 20 日 (日) 第 1 次選考では、次の活動と出願書類により選考を行います。
レクチャー①	講師によるレクチャー（あるテーマについて、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
レクチャーレポート	レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
自己申告書 〈出願時に受験者が作成〉	自己を推薦する文章及び学修計画に関する文章を作成する。
調査書 〈出願時に出身高校等で作成〉	高校等での学業成績や活動の記録・評価等を記載する。
第 1 次選考合格発表	令和 6 年 11 月 1 日 (金)
第 2 次選考	第 2 次選考では、第 1 次選考に合格した方に対して、2 日間の活動を通じた選考を行います。
1 日目〈令和 6 年 11 月 16 日 (土)〉	
レクチャー②	講師によるレクチャー（レクチャー①のテーマを踏まえた内容について、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講する。
グループワーク	レクチャー②に関するテーマについて、少人数のグループで議論を行う。
ふりかえりレポート	一連の過程を振り返り、自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。
2 日目〈令和 6 年 11 月 17 日 (日)〉	
面接 〈口頭試問を含む〉	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問、志望する学類への意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では、「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。
第 2 次選考合格発表	令和 6 年 11 月 29 日 (金)
入学手続後	本学入学後の指導の参考とするため、令和 7 年度大学入学共通テストにおいて、本学が指定する科目を受験し、自己採点結果を報告していただきます。大学入学共通テストの出願期間は、大学入試センターが公表する受験案内を確認してください。

2 総合型選抜はこんな方にオススメ！

- ・大学で学びたいことや、進みたい学類が決まっている方
- ・学類での学修に対する強い意欲や高い資質のある方
- ・高等学校までの総合的な探究の時間等で問題解決型の活動に意欲的に取り組んできた方

3 総合型選抜の概要

重視する「高校等での学習」の成果

総合的な探究の時間や各教科等での、①問題解決型の活動が発展的に繰り返される探究学習、②互いの考えを伝え合い、自身の考えを発展させる等、他者と協働して課題を解決する学習、③自ら得た情報を分析・評価し、まとめ、表現する学習等

例：総合的な探究の時間での探究活動・協働的な学習・言語活動、SSH での科学的探究活動、SGH でのグローバル探究学習、専門高校でのプロジェクト学習等

総合型選抜で評価する資質や能力

これまでの学習に基づく学力の基盤や、高校等での探究的活動に裏付けされた課題発見・解決能力に加えて、自身の興味や関心に基づいた、学類での学修に対する強い意欲や高い資質

(1) 出願書類

自己申告書は受験者本人が作成したものを、調査書は高校等で作成されたものを提出してください。

自己申告書①

自己申告書①の内容	これまで（主に高校等）の学習成果やそのことによって得た自身の強みについて、事実に基づいて示し、自己を推薦する文章を作成する。 ※ P.5 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	高校等での学びの実践を通して、主体的に学び考え、自ら課題を設定し、興味や関心を追究する力や態度が身につけている。
評価する資質や能力	これまでの学習や活動の実績に裏付けられた自身の強みについて、根拠を提示しながら、筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

自己申告書②

自己申告書②の内容	志望する学類への興味や関心をもとに、志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために「何を」「どのように」学びたいか、自身の学びの展望を提示し、学修計画を立てる。 ※ P.6 参照
「高校等での学習」の成果として重視する点	見通しをもって、自身の興味や関心をよく整理した上で、入学後の目標を設定し、その実現に向けた道筋を計画する力や態度が身につけている。
評価する資質や能力	自ら志望する学類への興味や関心をもとに、志望する専門分野の学問的意義や社会的位置付けを関連させながら志望する学群・学類を卒業した後の目標を設定し、その実現に向けた自身の展望を、根拠を提示しながら、筋道を立てて説得力のある文章で表現できる力。

調査書

評価する資質や能力	・高校等での学業成績（評定平均値を含む。）等の観点からみた学力の基盤。 ・調査書における「指導上参考となる諸事項」及び「総合的な探究の時間の記録」やその他の記載事項からみた学習内容 等
	※総合的な探究の時間を履修しなかった者（研究開発学校、専門学科）については、総合的な探究の時間に代わる活動を記した副申書をもって代えることができる。

自己申告書① これまでの学習成果やそのことによって得た自身の強みを PR する

作成にあたって

- ・学習成果とは、各教科の学習（総合的な探究の時間を含む。）、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事での成果のことを指します。課外の部活動や学外活動（ボランティア活動等）について述べる場合も、各教科の学習（総合的な探究の時間を含む。）やホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事と関連づけて書いてください。
- ・学習成果は、「～を経験した」「～ができた」「～の成果を残した」という事実や結果の列挙だけではなく、そこに至るまでの過程や、どのように考えて活動したか、また、それらを通して自分が何を学んだか等を具体的に書いてください。
- ・高等学校等での学習（例えば探究学習等）を通して得た「これだけは誰にも負けない」という自分の強みについて書いてください。
- ・他人の言葉や書籍・インターネットから引用するのではなく、自分の経験を踏まえ、自分の言葉で書いてください。

自己申告書② 入学後の学びの展望を示す

作成にあたって

- ・単に「～を学びたい」「～をしたい」ということを書くのではなく、なぜその分野に興味を持ったのか、興味を持ったことに対してこれまでにどのような活動をしたのか等を具体的に書いた上で、入学後の学修に対する自らの展望を説明してください。
- ・志望する学群・学類が持つ学問的意義や社会的位置付けを明確にしなが、志望分野への強い意欲や、自ら積極的に学ぼうとする姿勢等を、自分の言葉で書いてください。
- ・大学での4年間の学びにとどまらず、大学卒業後の自分の将来の姿をイメージし、関連させながら書いてください。

①あなたのこれまでの学習成果や、それによって得られた自分の強みについて、主体的に取り組み実践した過程を根拠に示しながら説明してください。そのうえで、文章に表題もつけてください。

(※令和6年度入学者選抜では学校法人河合塾の J-Bridge System を使用しました。画像は J-Bridge System のものです。令和7年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。)

作成のポイント

- ・これまでの学習のなかで、課題を自分で見つけて、それを解決するための活動や情報収集を行った経験があれば、その過程を具体的に記載しよう。
- ・その結果、どのようなことが得られたのか、学習と得られたこととのつながりがわかるように記載しよう。
- ・学習の過程で、新しい気づきがあったか、自分の強みは何か、振り返って考えてみよう。自分を分析してみることが大切！
- ・ほかの人にはない自分の特徴をアピールしよう。

②あなたが、志望する学群・学類を卒業した後の目標を実現するために、「何を」「どのように」学びたいのかを計画し、文章で書いてください。

(※令和6年度入学者選抜では学校法人河合塾の J-Bridge System を使用しました。画像は J-Bridge System のものです。令和7年度入学者選抜では変更が生じる場合があります。)

作成のポイント

- ・志望する分野に興味を持ったきっかけや理由を具体的に記載しよう。
- ・志望する分野に関連することについて、自分で活動したり、調べたりしたことがあれば、必ず記載しよう。
- ・大学での学びへの熱い思いを記載しよう。将来の「夢」だけではなく、入学後にいつ、何を、どのように学んでいくのかなど、できるだけ具体的に「計画」を立ててみよう。
- ・大学での学びは、社会ではどんな意味があるのか、調べてみよう。ウェブサイトでは研究内容の紹介もしているので、興味のある分野を覗いてみることもおすすめ！

(2) 第1次選考

第1次選考では、以下の活動（レクチャー①、レクチャーレポート）を評価した成績に加えて、自己申告書、調査書の内容を総合的に判定して選抜を行います。

試験科目	内容	評価
レクチャー① (50分)	講師によるレクチャー①を受講します。	レクチャーレポートを対象とします。
レクチャーレポート (80分)	レクチャー①の内容に関するレポートを作成します。	

レクチャー①・レクチャーレポート

レクチャー①・レクチャーレポートの内容	レクチャー①（あるテーマについて、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。）を受講し、その後、レクチャー①の内容に関するレポート（設問形式）を作成する。
「高等学校での学習」の成果として重視する点	聴講活動を通して、課題意識をもち、得られた事象や情報を整理・分析し、概要にまとめ、論述する力や態度が身についている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し、その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに、自身が探究すべき課題を設定し、高校等での学習や自身の経験をレクチャー①の内容と関連付けながら、その解決への道筋を考察し、論述できる力。

【参考】昨年のレクチャー①・レクチャーレポートの内容例（実際のものとは一部表現が異なります。）

〈レクチャー①概要〉

人口減少と少子高齢化が「働く」ことへ与える影響について、生産年齢人口と労働力人口の推移、年齢別・男女別労働力人口の推移、労働生産性の推移と国際比較、労働時間の変化に着目し、それらの定義やデータを示しながら具体的に説明した。あわせて、「物流の2024問題」を取り上げ、労働時間の短縮が社会に負の影響をもたらす場合もあること、その対応はサービス提供側だけの努力では限界があり、利用者側の理解と連携が必要であることについても、思考を促した。

〈レクチャー①資料〉

- 図表 1 日本の人口と生産年齢人口の推移
- 図表 2 人口に関する3つの年齢区分
- 図表 3 生産年齢人口が減少する仕組み
- 図表 4 日本の人口と生産年齢人口・労働力人口の推移
- 図表 5 労働力人口の定義
- 図表 6 男女別・年齢階級別にみた労働力率の推移
- 図表 7 経済成長と労働生産性
- 図表 8 労働生産性の定義～就業者1人あたり労働生産性
- 図表 9 主な国の就業者1人あたり労働生産性の推移
- 図表 10 労働生産性の定義～1時間あたり労働生産性
- 図表 11 主な国の1時間あたり労働生産性の推移
- 図表 12 就業者1人あたり労働生産性と1時間あたり労働生産性の推移の比較
- 図表 13 月間1人あたり平均労働時間の推移
- 図表 14 年齢階級別・雇用形態別にみた雇用者数の推移
- 図表 15 物流の2024年問題
- 図表 16 不足する輸送力とその影響
- 図表 17 トラック輸送をめぐる物流の状況
- 図表 18 トラックドライバーの働き方をめぐる状況（2021年）
- 図表 19 荷主企業と連携が必要な取り組み

〈レクチャーレポート設問〉

- 問1** 日本の生産年齢人口と労働力人口について、以下の設問に答えなさい。
- (1) 日本において生産年齢人口が減少してきている理由を、【図表3】にもとづいて説明しなさい。
 - (2) 【図表4】に示されているとおり、2012年以降の日本では、生産年齢人口が減少しているのに対し労働力人口は増加している。このように、生産年齢人口が減少しているにもかかわらず、なぜ労働力人口は増加しているのか。その理由と考えられる要因を2つ述べなさい。なお、解答にあたっては、根拠となる図表番号と参照部分を明示しなさい。
 - (3) これからの日本の労働力人口の推移について、増加をもたらすと考えられる要因と減少をもたらすと考えられる要因を、それぞれ述べなさい。なお、解答にあたっては、根拠となる図表番号を明示しなさい。

⇒ねらい：与えられたデータから仮説を立て、論理的に説明できる力をみる。

- 問2** 労働生産性に関して、以下の設問に答えなさい。
- (1) 2015年から2020年における日本の就業者1人あたり労働生産性の変化率と、1時間あたり労働生産性の変化率を計算しなさい。なお、解答にあたっては計算式も示し、数値は小数第1位を四捨五入して答えなさい。
 - (2) 2015年と2020年の日本の国内総生産（GDP）が一定であったと仮定すると、就業者1人あたり労働生産性と1時間あたり労働生産性の変化率が、問2(1)のような計算結果を示す要因として、どのようなことが考えられるか。【図表8】および【図表10】に示す定義式にもとづいて、それぞれ説明しなさい。
 - (3) 問2(1)(2)で説明した状況は、レクチャー1章、2章で取り上げた働き方の変化とどのような関係があると考えられるか。根拠とした図表番号を示しながら説明しなさい。

⇒ねらい：就業者一人当たりの労働生産性、及び一時間当たりの労働生産性を素材に、計算力、式の構造の理解力、及びこれらの数学的知見に関する図表を関連付ける力をみる。

- 問3** 「物流の2024年問題」に関して、以下の設問に答えなさい。
- (1) 「物流の2024年問題」において懸念されていることについて、その背景にある物流の状況と働き方の状況に触れながら説明しなさい。なお、解答にあたっては、根拠とした図表番号を明示しなさい。
 - (2) トラックドライバーの長時間労働の改善が、物流業界の取り組みだけでは難しい理由を、具体的な事例を挙げながら説明しなさい。
 - (3) レクチャーにおける「物流の2024年問題」を改善する取り組みにおける荷主企業の立場を、個人宅配サービスを利用するあなた自身の立場に置き換えたとき、あなた自身が物流業界の課題改善に向けてできることは何か。またそれは、物流業界の課題改善にどのようにつながっていくか。300字以内で述べなさい。なお、解答にあたっては、レクチャー内容やこれまでの経験・学習など、何にもとづいてそのような考えに至ったのか、具体的に述べることを。

⇒ねらい：「物流の2024問題」を素材に、適切な図表からの的確に情報を整理・説明する力、及びその情報を自分事として置き換え、考察する応用力をみる。

レクチャー①・レクチャーレポートのポイント

- ・レクチャー①で説明される内容を、理解しながら、重要だと思うことをしっかりメモしておこう。
- ・レクチャー①では、グラフや表が多く出てきます。様々な種類のグラフや表を正しく読み取るだけでなく、数値を加工したり複数のグラフや表を組み合わせると、どんなことが読み取れるのか、普段から考える癖をつけておこう。
- ・読み取った内容を簡潔な文章で適切に表現できるようにしておこう。
- ・レクチャー①で説明される内容と、高校までの学習内容や自らの体験などを結びつけて理解を深めよう。

(3) 第2次選考

第1次選考に合格した方に対して、2日間の活動を行い、2日間の活動を評価した成績及び自己申告書、調査書等の出願書類の内容を総合的に判定して選抜を行います。

選抜日程	試験科目	内容	評価
1日目	レクチャー②(50分)	講師によるレクチャー②を受講します。 レクチャー②の内容は、レクチャー①のテーマを踏まえ、多様な視点等を加えて発展させたものを予定しています。	主としてふりかえりレポートを対象とします。
	グループワーク(60分)	レクチャー②に関連するテーマについて、少人数のグループで議論を行います。	
	ふりかえりレポート(80分)	レクチャー②から一連の過程を振り返り、レポートを作成します。	
2日目	面接(口頭試問を含む。)(25分)	高校までの基礎的な学習成果を問う口頭試問及び志望する学類への意欲や資質を問う面接を受けます。 1人あたり25分間の面接を行います。内訳は以下のとおりです。 ・口頭試問(約15分) ・面接(約10分)	口頭試問を重視します。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポート

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容	レクチャー②(レクチャー①のテーマを踏まえた内容について、さまざまな資料やデータを用いて事例紹介や説明等を行う。)を受講し、その後、レクチャー②に関連するテーマについて、少人数のグループで議論(グループワーク)を行う。グループワーク終了後、レクチャー②から一連の過程を振り返り、自身の思考の変化や深まりをレポートにまとめる。
「高校等での学習」の成果として重視する点	他者と協働して課題を解決することができる力や、課題解決に至るまでのプロセスの中で、自身の思考の変化や深まりに気づく力が身についている。
評価する資質や能力	自身の考えを他者と共有し、進んでグループに貢献する力や、他者の意見や問題提起を受け、さまざまな意見や高校での学習、自身の経験などを比較しながら、自身の思考を展開する力。さらに、自身の思考の展開について、根拠を示しながら、筋道を立てて説得力のある論述ができる力。

【参考】昨年のレクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートの内容例(実際のものとは一部表現が異なります。)

〈レクチャー②概要〉

少子高齢化が進む日本においては、人手不足への対処が必要であり、まず、その対処方法について解説した。次に、外食産業を事例に挙げ、この産業では特に増員によって人手不足を解消することが困難であることを解説し、情報化や機械化することによる解決の可能性を提示した。その上で、外食産業における情報化・機械化の事例について、具体的な方法を導入の狙いとともで紹介した。これらの方策にはメリットもあるがデメリット(課題)もあり、利用客やスタッフそれぞれの立場で異なること、業態の違いによって導入しやすいものや、しにくいものが存在することについても説明を加えた。

〈レクチャー②資料〉

- 図表1 外食産業における人手不足の主な理由
- 図表2 人手不足への対処方法(その1)
- 図表3 産業別にみた人手の過不足(2030年の推計結果)
- 図表4 運輸業・郵便業と宿泊業・飲食サービス業の人手の現状
- 図表5 人手不足への対処方法(その2)
- 図表6 情報化・機械化とは
- 図表7 外食産業における情報化・機械化の事例
- 図表8 デジタルメニューブックの機能と導入のねらい
- 図表9 調理ロボットの機能と導入のねらい
- 図表10 配膳ロボットの機能と導入のねらい
- 図表11 デジタルメニューブックと配膳ロボット導入後の反応
- 図表12 様々な種類の飲食店
- 図表13 定食屋の特徴
- 図表14 定食屋の接客において重視されること
- 図表15 高級レストランの特徴
- 図表16 高級レストランの接客において重視されること
- 図表17 洋食店Aの概要
- 図表18 ファミリーレストランBの概要

〈グループワークテーマ〉

洋食店Aでは、ファミリーレストランBのように情報化・機械化を行うべきかを検討中であり、その際に、どのような場面でどのような機器を導入すべきか、また、どのような場面はスタッフが担うべきかを考えている。(洋食店AおよびファミリーレストランBの概要は、「レクチャー②資料冊子」の【図表17】【図表18】を参照)
この状況を踏まえ、以下の各項目についてグループワークを行いなさい。なお、議論にあたって、なるべく多くの異なる意見を出し合い、互いの意見やその根拠となる考えをしっかりと確認すること。最終的に、あなたの結論とグループの結論が異なってもかまわない。
〈中略〉

〈ふりかえりレポート設問〉

- 問1 資料冊子を含むレクチャー②の内容にもとづき、以下の設問に答えなさい。
(1)【図表2】のBと【図表5】のCについて、2つの労働生産性の違いをその根拠とともに説明しなさい。また、その結果をもとに、どちらの対処方法がよいと考えるか、あなたの考えを述べなさい。なお、両者の生産量は同じとする。
(2) デジタルメニューブックの導入は、利用客とスタッフのそれぞれに、どのようなメリットとデメリットをもたらしたと考えられるか。【図表11】をもとにまとめなさい。
(3) (2)のメリット、デメリットを踏まえると、【図表8】における導入のねらいは達成できたといえるか、あなたの考えをその根拠とともに述べなさい。また、導入のねらいをより達成させるためには、さらにどのようなことが必要となるか、あなたの考えを述べなさい。

⇒ねらい: レクチャー②の内容を正しく理解し、複数の資料を活用して、労働生産性の概念、情報化・機械化の利用客・スタッフそれぞれにとってのメリット・デメリット、経営者のねらいとの乖離とその対処法について説明できるかをみる。

- 問2 洋食店Aにおける情報化・機械化について、以下の設問に答えなさい。
(1) グループワークを経て、あなたは、洋食店Aの接客において、どのような「項目」を重視するという結論に至ったか。最も重視することになった1つについて、その結論に至った理由とともに述べなさい。なお、ファミリーレストランBとの違いにも触れること。
(2) グループワークを経て、あなたは、洋食店Aの接客において、どの「場面」で、どのような機器を導入するという結論に至ったか。導入することになった1つについて、その結論に至った理由とともに述べなさい。なお、導入する機器とスタッフの役割分担についても触れること。
(3) 洋食店Aにおける情報化・機械化について、あなたの考えは自己ワークの時点からグループワークを経てどのように変化したが、または深まったか、説明しなさい。

⇒ねらい: グループワークでの他者の意見を参考に自らの考えを深め、自らの情報化・機械化に対する考え・主張を、根拠に基づいて論じるとともに、客観的に評価できる力をみる。

- 問3 外食産業以外の分野でも、今後、情報化・機械化が進んでいくことが考えられる。そのような社会において、あなたはどのような態度や行動をとろうと考えているかについて、以下の①②合わせて300字以内で述べなさい。
①あなたはこれまでどのような考え方だったか。その根拠(高校までの学習内容、あなた自身の経験など)を示して具体的に述べなさい。
②また、その考え方は、レクチャー、自己ワーク、グループワークを経てどのように変化したが、または深まったか、具体的に述べなさい。

⇒ねらい: 情報化・機械化を他の産業に当てはめて考えさせ、これまでの自身の考え方が、レクチャー①、レクチャー②、自己ワーク、グループワークを経てどのように変化したが、または深まったかを、論理的に説明できる力をみる。

レクチャー②・グループワーク・ふりかえりレポートのポイント

- ・レクチャー②では、レクチャー①同様に説明される内容を、理解しながらメモを取り、自分の考えを整理しよう。
- ・グループワークでは、自分以外の受験者の意見を聴いて、自分とは違う考えがあるということも理解し、自分の考えをできるだけ深めるようにしよう。議論に積極的に参加することが、自分の考えの整理にも役立ちます。
- ・ふりかえりレポートでは、グループワークで議論したことだけでなく、レクチャー①・②、これまでの学習や体験も踏まえて、他者の意見をヒントに自らの考えを広げ、どのように変化したり、深まったか、文章で表現しよう。

面接(口頭試問を含む。)

面接(口頭試問を含む。)の内容	基礎的な学習成果に基づく口頭試問、志望する学類での学修に対する意欲や資質を問う面接を行う。 ※口頭試問では、「英語」と「数学」に関する基礎的な内容の口頭試問を実施します。
「高校等での学習」の成果として重視する点	自身の興味や関心を整理し、入学後の学修を見通す力や態度が身についている。
評価する資質や能力	高等学校までの基礎的な学習成果及び高等学校等での学びの実践に基づく、学類での学修に対する強い意欲や高い資質。

昨年の口頭試問の内容例 (実際のものと一部表現が異なります。)

〈英語〉

【提示資料】

Michael was considering purchasing an annual aquarium membership, so he decided to ask the aquarium staff about the benefits (①) membership entitles him to. According to the staff, members receive discounts at restaurants, advance admission to events such as evening events at the aquarium, and discounts on admission fees related to entertainment venues throughout the country. As a college student, Michael also checked to see if there were special rates for students. When he was told that he could receive a 10 percent discount off the regular annual membership price by simply presenting his student ID, he finally decided to become a member.

【口頭試問内容】

- 問1 下線部の語の意味と最も近い語をイ～ニから選び、記号で答えなさい。
 ① becoming
 ② asking
 ③ choosing
 ④ buying
- 問2 (①)に入れるのに最も適切な語をイ～ニから選び、記号で答えなさい。
 ① to which
 ② that
 ③ what
 ④ whose
- 問3 次の設問に対して、最も適切な答えをイ～ニから選び、記号で答えなさい。
 What is one advantage of an annual membership?
 ① Invitation to entertainment facilities
 ② Discounts at the gift shop
 ③ Early admission to events
 ④ Free food and drinks
- 問4 次の設問に対して、最も適切な答えをイ～ニから選び、記号で答えなさい。
 What does Michael need to apply for a student discount?
 ① A student identification card
 ② A college degree
 ③ A payment of 10%
 ④ A special brochure
- 問5 この英文に付けるタイトルとして最も適切なものをイ～ニから選び、記号で答えなさい。
 ① How to Buy an Annual Aquarium Membership
 ② Advantages of Showing ID
 ③ Information for Advanced Admission
 ④ Benefits of an Annual Membership

〈数学〉

【口頭試問内容】

- 問1 実数 x に対して、 $n \leq x < n + 1$ を満たす整数 n を $[x]$ で表す。次の $[x]$ に対する n の値を求めよ。
 (1) $[3.7]$
 (2) $[7]$
 (3) $[-2.3]$
- 問2 次の (1) と (2) の の中に入る最も適切なものを、下の (イ)～(ニ) から1つ選びなさい。ただし、 a, b, c は実数とする。
 (1) $ac = bc$ は、 $a = b$ であるための
 (2) $ac \neq bc$ は、 $a \neq b$ であるための
- (イ)「必要条件であるが、十分条件ではない」
 (ロ)「十分条件であるが、必要条件ではない」
 (ハ)「必要十分条件である」
 (ニ)「必要条件でも、十分条件でもない」

学校推薦型選抜

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：24名 事業構想学群：40名 食産業学群：28名																					
出願資格	令和7年度大学入学共通テストのうち指定する教科・科目をすべて受験し、次の(1)から(4)までのすべてに該当する方 (1) 高等学校または中等教育学校を令和7年3月に卒業見込みの方 (2) 志望する学群に対し、熱意と適性を有する方で、高等学校または中等教育学校の長が責任を持って推薦できる方 (3) 合格した場合には、必ず入学することを確約できる方 (4) 調査書の全体の評定平均値が4.0以上の方で、人物、学力とも特に優秀である方																					
推薦人数の概要	看護学群 推薦できる人数は、宮城県内の高等学校または中等教育学校からは1校あたり2人まで、宮城県外の高等学校または中等教育学校からは1校あたり1人とします。 事業構想学群・食産業学群 推薦できる人数は、宮城県内の高等学校または中等教育学校からは1校あたり各学群4人まで、宮城県外の高等学校または中等教育学校からは1校あたり各学群2人までとします。 ※詳細は令和7年度大学入学 入学者選抜要項を確認してください。																					
出願期間	令和6年12月17日(火)～令和6年12月24日(火) 【期間内必着】																					
令和7年度大学入学共通テスト	試験日：令和7年1月18日(土)・令和7年1月19日(日) 〈大学入学共通テストの利用教科・科目〉																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>国語</th> <th>地理歴史・公民</th> <th>理科</th> <th>数学</th> <th>外国語</th> <th>情報</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配点</td> <td>200</td> <td>100^[※1]</td> <td>100^[※2]</td> <td>200</td> <td>250^[※3]</td> <td>100</td> <td>950</td> </tr> </tbody> </table>	教科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	情報	合計	配点	200	100 ^[※1]	100 ^[※2]	200	250 ^[※3]	100	950					
教科	国語	地理歴史・公民	理科	数学	外国語	情報	合計															
配点	200	100 ^[※1]	100 ^[※2]	200	250 ^[※3]	100	950															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科</th> <th>科目及び選択方法</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>『国語』必須</td> <td>[※2]</td> </tr> <tr> <td>地理歴史</td> <td>『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『地理総合/歴史総合/公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択</td> <td>[※1]</td> </tr> <tr> <td>理科</td> <td>『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において2出題範囲を選択 又は『物理』『化学』『生物』『地学』から1科目を選択</td> <td>[※2]</td> </tr> <tr> <td>数学</td> <td>『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須^[※4]</td> <td>[※3]</td> </tr> <tr> <td>外国語</td> <td>『英語(リスニングを含む。)]必須</td> <td>[※4]</td> </tr> <tr> <td>情報</td> <td>『情報Ⅰ』必須</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	教科	科目及び選択方法		国語	『国語』必須	[※2]	地理歴史	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『地理総合/歴史総合/公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択	[※1]	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において2出題範囲を選択 又は『物理』『化学』『生物』『地学』から1科目を選択	[※2]	数学	『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須 ^[※4]	[※3]	外国語	『英語(リスニングを含む。)]必須	[※4]	情報	『情報Ⅰ』必須	
教科	科目及び選択方法																					
国語	『国語』必須	[※2]																				
地理歴史	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『地理総合/歴史総合/公共』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択	[※1]																				
理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において2出題範囲を選択 又は『物理』『化学』『生物』『地学』から1科目を選択	[※2]																				
数学	『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須 ^[※4]	[※3]																				
外国語	『英語(リスニングを含む。)]必須	[※4]																				
情報	『情報Ⅰ』必須																					
選抜期日	面接実施日：令和7年2月2日(日)																					
選抜方法	大学入学共通テストの合計点、調査書、推薦書、自己申告書等の出願書類の内容及び面接の成績を総合的に判定します。																					
合格発表	令和7年2月12日(水)																					

2 学校推薦型選抜はこんな方にオススメ!

- ・リーダーシップを発揮し、率先して様々な活動に取り組める方
- ・大学に入学してから、自分の進みたい道(学類)を決めたい方
- ・高校までの、偏りなく幅広く、継続した学習の成果が身についている方

3 入試科目「面接」の概要

評価する資質や能力	高校等での学びの実践に基づく、学群での学修に対する強い意欲や高い資質。
-----------	-------------------------------------

一般選抜〔前期・後期〕

1 選抜方法と日程

募集人員	看護学群：前期 48名 / 後期 10名 事業構想学群：前期 100名 / 後期 20名 食産業学群：前期 62名 / 後期 12名
令和7年度 大学入学 共通テスト	令和7年1月18日(土)・令和7年1月19日(日)
出願期間	令和7年1月27日(月)～令和7年2月5日(水)【期間内必着】
個別学力検査	前期：令和7年2月25日(火) 後期：令和7年3月12日(水) 看護学群：外国語(英語)、論説 事業構想学群：外国語(英語)、論説、数学 食産業学群：外国語(英語)、理科、数学 前期：令和7年2月26日(水) 後期：令和7年3月13日(木) 看護学群：面接
選抜方法	大学入学共通テスト、学群毎の個別学力検査の成績を基本として調査書等の内容を総合的に判定して行いますが、合否判定に用いた教科等において、得点のない教科等があった場合は合格者とはなりません。看護学群では、面接の評価が一定の基準に満たない場合は、合格対象から除外されます。事業構想学群及び食産業学群では、主体性等の評価のため、活動実績報告書を得点化して総合的な合否判定に用います。
合格発表	前期：令和7年3月6日(木) 後期：令和7年3月20日(木)

2 大学入学共通テスト及び個別学力検査の科目等

看護学群	一般選抜(前期日程・後期日程) 共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史 公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択
理科〔※1〕	次の(1)又は(2)のいずれか (1)『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか2出題範囲を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から1科目を選択 (2)『物理』『化学』『生物』から2科目を選択
数学〔※2〕	『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須
外国語	『英語(リスニングを含む。)]必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6教科8科目	
大学入学共通テスト 理科の選択方法	個別学力検査
(1)	『外国語』『論説』『面接』
(2)	『外国語』『論説』『面接』

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
 【※1】基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。
 ・『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2出題範囲を選択解答してください。
 【※2】『数学B』及び『数学C』については、数列(数学B)、統計的な推測(数学B)、ベクトル(数学C)及び平面上の曲線と複素数平面(数学C)の4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

事業構想学群	一般選抜(前期日程・後期日程) 共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史	次の(1)から(4)までのいずれか (1)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から2科目を選択 かつ『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において2出題範囲を選択 (2)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から2科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』『地学』から1科目を選択 (3)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択 かつ『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において2出題範囲を選択 並びに『物理』『化学』『生物』『地学』から1科目を選択 (4)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』『地学』から2科目を選択
公民〔※1〕	
理科〔※2〕	
数学〔※3〕	『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須
外国語	『英語(リスニングを含む。)]必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6教科8科目又は7教科8科目	
大学入学共通テスト 地歴公民と理科の選択方法	個別学力検査
(1)	『外国語』『論説』『面接』
(2)	『外国語』『論説』『面接』
(3)	『外国語』『論説』『面接』
(4)	『外国語』『論説』『面接』

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
 【※1】『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
 【※2】基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。
 ・『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から2出題範囲を選択解答してください。
 【※3】『数学B』及び『数学C』については、数列(数学B)、統計的な推測(数学B)、ベクトル(数学C)及び平面上の曲線と複素数平面(数学C)の4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

食産業学群	一般選抜(前期日程・後期日程) 共通
大学入学共通テストの利用教科・科目等	個別学力検査
教科	科目及び選択方法
国語	『国語』必須
地理歴史	次の(1)から(4)までのいずれか (1)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から2科目を選択 かつ『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか2出題範囲を選択 (2)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から2科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から1科目を選択 (3)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択 かつ『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』において、「地学基礎」を除くいずれか2出題範囲を選択 並びに『物理』『化学』『生物』から1科目を選択 (4)『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から1科目を選択 かつ『物理』『化学』『生物』から2科目を選択
公民〔※1〕	
理科〔※2〕	
数学〔※3〕	『数学Ⅰ、数学A』必須 『数学Ⅱ、数学B、数学C』必須
外国語	『英語(リスニングを含む。)]必須
情報	『情報Ⅰ』必須
6教科8科目又は7教科8科目	
大学入学共通テスト 地歴公民と理科の選択方法	個別学力検査
(1)	『外国語』『論説』『面接』
(2)	『外国語』『論説』『面接』
(3)	『外国語』『論説』『面接』
(4)	『外国語』『論説』『面接』

大学入学共通テスト利用教科・科目における注意事項
 【※1】『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組合せを選択することはできません。
 【※2】基礎を付した出題範囲と基礎を付していない科目について、同一名称を含むもの同士の選択を認めます。
 ・『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』を選択する場合は、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」から2出題範囲を選択解答してください。
 【※3】『数学B』及び『数学C』については、数列(数学B)、統計的な推測(数学B)、ベクトル(数学C)及び平面上の曲線と複素数平面(数学C)の4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答してください。

3 入試科目「論説」の概要

論説の内容	課題文や資料(文章や図表等)を読み、設問に解答する。
「高校等での学習」の成果として重視する点	得られた事象や情報を整理・分析し、概要にまとめ、論述する力や態度が身につけている。
評価する資質や能力	与えられた事象や情報を的確に把握し、その中から必要なものを抽出・分析する力。さらに、課題を見出し、高校等での学習や自身の経験を資料等の内容と関連付けながら、その解決への道筋を考察し、論述できる力。

昨年の「論説」の内容例

〈テーマ〉

「若者の居場所について」

〈与えられる資料〉

資料1 内閣府が行った若者へのアンケート調査の結果に関するグラフ

資料2 居場所づくりに関する文章

【文章の概要】

居場所の定義は様々である。それは、居場所自体が多様で、多面性を持つからである。例えば、「居場所」が、どこから逃げてきた、あるいは排除されてきた人々のための空間である場合もあれば、家庭や社会などを「居場所」として持って、さらにもう一つの「居場所」である場合もある。また、他人とのつながりがあることが「居場所」の重要な要素だが、交流しなくてもその場にずっと居られることもまた、「居場所」の条件である。

資料3 アジール「避難所」に関する文章

【文章の概要】

隠れ家のような場所のことを、「アジール」という。アジールに逃げ込めば、罪人は庇護され、安全を確保することができる。つまり、不可侵な場所である。私たちは、責められず、傷つけられず、気を緩ますことのできる場所が必要だから、今もアジールを持っているし、つくり続けている。現代の罪人とは、文字通り法律に違反した人ではなく、集団の規範から外れてしまって、なんとなく生きづらくなってしまった人のことだ。

資料4 サードプレイス「居場所」に関する文章

【文章の概要】

サードプレイスとは、「家庭と仕事の領域をこえて、定期的で自発的でインフォーマルな、楽しみを期待する人々の集いの場を提供する、非常に多様な公共空間の包括的な名称」である。オルデンバーグは、サードプレイスの特徴を8点あげて説明した。サードプレイスは中立性を基盤とするので、訪問者たちを社会的平等の状態にする役目を果たす。また、精神的な心地よさと支えをもたらす点が、よい家庭と非常によく似ている。

〈設問〉

若者の居場所に関する資料1～資料4をみて、問1～問3に答えなさい。

- 問1 (1) 資料1は、全国の15歳から29歳までの若者を対象として、内閣府が行ったアンケート調査の結果である。図表A、図表Bから読み取ることができる、若者にとって居心地が良いと感じる場所の特徴と、他者との関わり方の特徴を100字以内で述べなさい。
 (2) 資料1の図表C、図表Dから読み取ることができる、若者にとっての他者との関わりと生活の充実度との関係を100字以内で述べなさい。
 (3) 資料1の図表E、図表Fから読み取ることができる、困難に直面した際の若者の行動上の特徴を150字以内で述べなさい。
 ⇒ねらい：与えられた資料から注目する事象や情報を的確に把握する力、把握した事柄を簡潔に記述する力を評価した。

- 問2 資料2～資料4はそれぞれ、居場所とはどのようなものかについての解釈を述べているものである。これらの資料から読み取ることができる、居場所の特徴を挙げたうえで、これらの内容を整理し、300字以内で述べなさい。
 ⇒ねらい：与えられた複数の資料(文章)を読み取り、内容を把握する力、その内容を再編し、文章で表現する力を評価した。

- 問3 資料1から、若者の居場所となり得るのは、①家庭(自分の部屋を含む)、②学校、③地域、④インターネット上が挙げられる。①～④の中から一つを取り上げ、それらを若者の望む居場所にするうえでの課題と解決策を、資料2～資料4の内容もふまえて、400字以内で述べなさい。なお、本問題において「若者」とは、15歳から29歳までの人々を指し、解答に際しては、以下の視点を含むこととする。
 ・対象とするのは、どのような若者か。
 ・どのような居場所を作ることが望ましいか。
 ・その居場所は、だれに対してどのように働きかけると実現するのか。
 ⇒ねらい：与えられた文章や資料から課題を見だし、高等学校等での学習や自身の経験と関連付けながら、解決への道筋を考察し、それらを論理的な文章にまとめる力を評価した。

論説のポイント

- 1つのテーマに関する複数の資料(文章、グラフ、表等)について、それらを関連付けながら読み解くことができるようにしよう。
- 課題になっていることは何か、自分ならその課題にどう対応するかを常に考えるようにしよう。その時に、自分の考えを補強するためにはどんなことを調べたらよいかも、あわせて考えてみよう。
- 普段から、論理的でわかりやすい文章で表現できるように心がけよう。

4 一般選抜における主体性等の評価

一般選抜における主体性等の評価は、看護学群では、面接で行います。事業構想学群と食産業学群では、「活動実績報告書」として出願者に自己申告していただき、全出願者分を採点することとします。記載内容の根拠は、調査書にて確認し、その他の追加資料(eポートフォリオ等)を求めることはしません。

主体性等の評価方法

看護学群：面接(前期日程では2月26日、後期日程では3月13日に実施する)

事業構想学群：活動実績報告書(出願時に自己申告する)

食産業学群：活動実績報告書(出願時に自己申告する)

〔「活動実績報告書」の内容〕

出願時に、以下の5項目のチェックリストを設け、出願者に自己申告していただきます。

出願者は以下の項目に関して自らの取組状況を振り返り、該当するかどうかを自己申告していただきます。

- (1) 高校における学習活動に主体的に取り組んできた
- (2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
- (3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
- (4) その他の活動に主体的に取り組んできた
- (5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある

※(1)には「総合的な探究の時間」等での探究活動を含みます。

記載内容の根拠の確認について

- 調査書のいずれかの欄に1つでも該当する記述があれば、自己申告の根拠とします。
- 調査書では「事実の記載があるかどうか」を根拠として確認します。記述の多寡は問いません。
- 調査書が提出できない出願者については、インターネット出願サイトより出力される「活動実績報告書」に加えて、別途、具体的な取り組みについての自由記述による「活動実績報告書【追加記述用】」を作成し提出してください。

(インターネット出願サイトより出力される活動実績報告書)

●●: C-1票	
令和6年度入学 宮城大学入学願書 一般選抜試験 ●● 日程活動実績報告書	
※受験番号	
<small>※受験番号は印刷用紙裏面に記載してください。</small>	
入試の種類	
志望学群	
フリガナ	
応募者氏名	
わたしは、高等学校等で取り組んできた活動内容を振り返り、チェックリストの5項目について以下のとおり報告します。	
チェックリスト	<p>(1) 高校における学習活動(「総合的な探究の時間」等での探究活動を含む)に主体的に取り組んできた</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない</p> <p>(2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない</p> <p>(3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない</p> <p>(4) その他の活動(上記1～3を除く校内・校外での活動)に主体的に取り組んできた</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない</p> <p>(5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない</p>

(調査書を提出できない方の活動実績報告書【追加記述用】)

●●: C-2票	
令和6年度入学 宮城大学入学願書 一般選抜試験(前期日程) 活動実績報告書【追加記述用】	
※受験番号	
<small>※受験番号は印刷用紙裏面に記載してください。</small>	
志望学群	1. 事業構想学群 2. 食産業学群
フリガナ	姓 別 男 ・ 女
氏 名	生年月日 昭和・平成 年 月 日
出願時の申告(1)	(1) 高校における学習活動(「総合的な探究の時間」等での探究活動を含む)に主体的に取り組んできた
有・無	
出願時の申告(2)	(2) 部活動・ボランティア活動等に主体的に取り組んできた
有・無	
出願時の申告(3)	(3) 生徒会・学校行事等に主体的に取り組んできた
有・無	
出願時の申告(4)	(4) その他の活動に主体的に取り組んできた
有・無	
出願時の申告(5)	(5) 高校で取得した資格、検定等、獲得した賞がある
有・無	

(※令和6年度入学選抜で使用したものです。令和7年度入学選抜では変更が生じる場合があります。)

入学者選抜方法についてのQ&A

●総合型選抜に関すること

Q1 総合型選抜には、学校長の推薦書が不要となっていますが、高校等の卒業見込み者だけでなく、既に高校等を卒業した者でも出願できますか。

A1 総合型選抜の出願資格は、学校推薦型選抜と異なり、必ずしも高校等の卒業見込み者であることを求めているわけではありません。令和7年度入試では平成14年4月2日以後に出生された方で、その他の要件を満たす方であれば、出願資格があります。

Q2 調査書の評定はどのくらい必要ですか。

A2 総合型選抜では、出願要件としての基準を設けていません。評定だけでなく、調査書の内容を総合的に評価します。(注：学校推薦型選抜の出願要件については、調査書の全体の評定平均値が4.0以上としています。)

Q3 自己申告書①に記載できるのは、学習の成果だけですか。部活動等について記載しても評価されないのでしょうか。

A3 学習成果(各教科の学習、ホームルーム活動、生徒会活動及び学校行事での成果)を評価対象としています。部活動や校外での活動を除外するものではありませんが、「学習成果」と関連付けて記載してください。

Q4 レクチャー①、レクチャー②の内容は志望する学群・学類に関連した内容が出るのですか。

A4 全学類の受験者に対して同じ内容のレクチャーを行いますので、必ずしも志望する学群・学類に関連した内容ではありません。

Q5 レクチャー②は、第1次選考のレクチャー①と関連する内容ですか。

A5 レクチャー②の内容は、レクチャー①のテーマを踏まえ、多様な視点を加えて発展させたものを予定しています。

Q6 レクチャーレポート作成のためには、どのような対策が必要ですか。

A6 高等学校等での授業の時に先生が話した内容についてメモをとり、自分で整理することがとてもよいトレーニングになります。

Q7 総合型選抜で入学することのメリットは何ですか。

A7 総合型選抜合格者は、入学時から学類が決定しているため、1年次から、各学類の2年次からの専門的な学びを見通した学修に取り組むことができます。

Q8 学校推薦型選抜・一般選抜との併願はできますか。

A8 本学の学校推薦型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし、総合型選抜に合格し、入学手続きを済ませた後は、他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。

●学校推薦型選抜に関すること

Q9 総合型選抜・一般選抜との併願はできますか。

A9 本学の総合型選抜・一般選抜にも出願することができます。ただし、学校推薦型選抜に合格し、入学手続きを済ませた後は、他の入試区分の入試を受けても合格者とはなりません。なお、他の国公立大学の学校推薦型選抜とは併願できませんので、注意してください。

Q10 大学入学共通テストの得点はどのように扱われますか。

A10 本学が指定する教科・科目の大学入学共通テストの合計点は、出願書類の内容及び面接の成績とともに、総合的な可否判定に利用します。

●一般選抜に関すること

Q11 数学や理科の個別学力検査の出題範囲を教えてください。

A11 事業構想学群と食産業学群で課される数学においては、「数学I」「数学II」「数学A」「数学B(数列, 統計的な推測)」「数学C(ベクトル)」からの出題を予定しています。
また、食産業学群の個別学力検査において、理科は化学又は生物いずれかの選択となります。化学は「化学基礎」「化学」の全範囲からの出題を、生物は「生物基礎」「生物」の全範囲からの出題を予定しています。

令和6年度入学 入試結果

入試の単位	区分	学群	学類	募集人員	出願者数	第1次選考 受験者数	第1次選考 合格者数	第1次選考 実質 競争倍率	第2次選考 受験者数	第2次選考 合格者数	第2次選考 実質 競争倍率	実質競争 倍率 (全体)	入学者数
学類単位の 入試	総合型選抜	看護学群	看護学類	8	62	62	24	2.6	24	9	2.7	6.9	9
		事業構想学群	事業プランニング学類	8	31	30	25	1.2	25	10	2.5	3.0	10
			地域創生学類	8	29	29	23	1.3	23	11	2.1	2.6	11
			価値創造デザイン学類	8	30	30	25	1.2	25	10	2.5	3.0	10
		食産業学群	生物生産学類	8	11	11	9	1.2	9	8	1.1	1.4	8
			フードマネジメント学類	8	32	32	24	1.3	24	12	2.0	2.7	12

入試の単位	区分	学群	募集人員	出願者数	受験者数	合格者数	実質競争 倍率	入学者数
学群単位の 入試	学校推薦型 選抜	看護学群	24	90	87	28	3.1	28
		事業構想学群	40	101	100	51	2.0	51
		食産業学群	28	37	36	30	1.2	30
	一般選抜 (前期)	看護学群	48	129	100	51	2.0	51
		事業構想学群	100	265	210	114	1.8	109
		食産業学群	62	185	149	80	1.9	70
	一般選抜 (後期)	看護学群	10	140	50	10	5.0	8
		事業構想学群	20	272	77	25	3.1	23
		食産業学群	12	298	76	20	3.8	16

令和6年度出身校所在地別志願者数・入学者数

出身校 所在地	看護学群						事業構想学群						食産業学群					
	志願者数			入学者数			志願者数			入学者数			志願者数			入学者数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
北海道	0	1	1	0	1	1	1	5	6	1	0	1	5	5	10	1	3	4
青森県	1	29	30	0	8	8	9	20	29	1	11	12	12	19	31	4	6	10
岩手県	0	31	31	0	6	6	16	33	49	5	10	15	9	20	29	5	8	13
宮城県	5	255	260	0	66	66	241	262	503	63	77	140	108	148	256	23	40	63
秋田県	2	23	25	0	4	4	4	23	27	0	4	4	1	22	23	0	11	11
山形県	3	12	15	1	2	3	15	31	46	5	13	18	3	11	14	0	3	3
福島県	1	29	30	0	5	5	11	20	31	3	8	11	11	29	40	2	7	9
東北6県	12	379	391	1	91	92	296	389	685	77	123	200	144	249	393	34	75	109
関東	2	20	22	0	2	2	7	12	19	2	4	6	28	37	65	3	5	8
中部	0	3	3	0	0	0	4	5	9	2	2	4	34	41	75	6	6	12
近畿	0	1	1	0	0	0	2	4	6	1	1	2	3	5	8	0	0	0
中国・四国	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3	9	2	1	3
九州・沖縄	0	3	3	0	1	1	1	2	3	0	1	1	0	4	4	0	1	1
その他	0	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
合計	14	408	422	1	95	96	312	417	729	83	131	214	221	344	565	46	91	137

入学者選抜に関する問い合わせは
宮城大学 アドミッションセンター

大和キャンパス／〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑1番地1
TEL.022-377-8333 FAX.022-377-8282
宮城大学ウェブサイト <https://www.myu.ac.jp/>